

認知症の容態と対応

	MCI 軽度認知障害	初期認知症	中期認知症	後期認知症
認知症の経過	もの忘れはあるが、日常生活は自立	誰かの見守りがあれば日常生活は自立	日常生活に手助けや介助が必要	常に介助が必要
本人の様子	☐ もの忘れはあるが、金銭管理、買い物、書類の作成等を含め、日常生活は自立 ☐ 買い物、金銭管理等にミスがみられる ☐ 新しいことが覚えにくい ☐ 約束したことを忘れる ☐ 気分の落ち込みや不安が強くなる	☐ 慣れた場所でも道に迷うようになる ☐ 買い物や調理、服薬管理、電話対応等、今までできたことに時間がかかり、ミスが目立つ ☐ 怒りっぽくなる	☐ 着替えや食事、トイレがうまくできなくなる ☐ 「財布をとられた」「お金がなくなった」等と言うことがある ☐ 時間や日時、季節、自宅や慣れた場所がわからなくなる	☐ 意思疎通が難しい ☐ 失禁が増える等、介護の手間が増える ☐ 飲み込みがうまくできず、食事に介助を要する ☐ 日常生活全般において介助が必要
本人の気持ち	☐ 頭がモヤモヤする ☐ 忘れっぽくなって、「もしかして認知症？」と、将来への不安や焦りがみられる ☐ 周りに、忘れっぽくなったと気付かれない ☐ 忘れてしまうことの落胆やいらだちがみられる	☐ これまではできていたことができなくなり、気持ちが沈んでしまう ☐ 家事も趣味もやる気がおきない ☐ 怒られるから、失敗を隠さなくちゃ		☐ 自分の感情や気持ちを言葉で表すことができない
家族の接し方	☐ 生活リズムを整える ☐ 地域活動に参加し、交流を持つ ☐ かかりつけ医に定期的に受診する ☐ 何気ないことに注意し、普段と違う様子がみえてきたときは相談する	☐ 毎日のいろいろなことに関心もてる環境にする ☐ 定期的な受診を行い、症状の変化を医師に相談する ☐ 将来のことについて、家族の中で話をしていく ☐ 火事や家庭内での事故が起きないように、工夫していく	☐ 本人の言葉を否定せずに、聞いてあげる ☐ 本人のできることを大切に、一緒に行い、自尊心を尊重する ☐ 同じ話を繰り返す時には、同じ言葉をゆっくり返してあげる ☐ 感情的になりそうなときには、少しの間、その場を離れる	
介護予防	○伊達市介護予防事業（健幸クラブ Fine、元気づくり会） ○シルバー人材センター ○老人クラブ			○いきいきふれあいサロン ○交流館活動
医療	○かかりつけ医 ○認知症サポート医 ○認知症疾患医療センター ○認知症初期集中支援事業			
介護保険	介護保険の検討・申請 介護サービスの利用			
	訪問介護、訪問入浴介護、訪問看護、訪問リハビリテーション、通所介護、通所リハビリテーション、短期入所、訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション、小規模多機能型居宅介護、住宅改修、福祉用具（レンタル・購入）等			
伊達市の事業	○高齢者配食サービス事業 ○緊急通報装置貸与事業 ○高齢者等見守り QR コード活用事業			○避難行動援護者台帳登録 ○あんしん情報キット配布事業（社会福祉協議会）
	○医療と介護の連携手帳「わたしのカルテ」配布			○訪問理美容サービス ○家族介護用品給付事業（要件あり）
権利を守る	○日常生活自立支援事業（社会福祉協議会）			
	○成年後見制度 ○クーリングオフ制度			